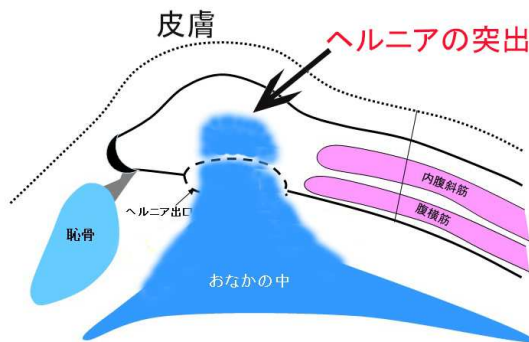


## 局所麻酔によるダイレクトクーゲル法

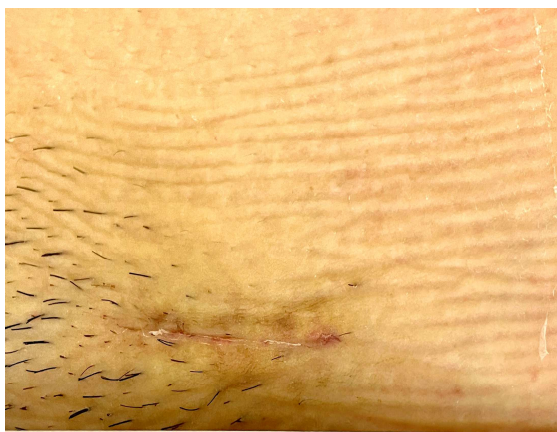
当院では形状記憶タイプのメッシュを挿入するダイレクトクーゲル法を中心に行っています。超音波で見ながら局所麻酔をヘルニア周囲に行った後に、皮膚を3~4cm切開します。ヘルニアを覆う膜（ヘルニアザック、腹膜）を剥離して、元の位置に戻した後に腹膜前腔にダイレクトクーゲルメッシュを挿入します。メッシュを挿入するだけで穴の閉鎖が可能です。局所麻酔のため、メッシュの挿入後、患者さんにお腹を膨らませてもらい、閉鎖ができているか確認ができます。手術後すぐに歩行ができ、食事でも食べられます。90才を超える高齢者や様々な基礎疾患をお持ちのかたにも安全に施行できます。手術時間は平均40分（20分~60分）と他の術式と比べて短いです。



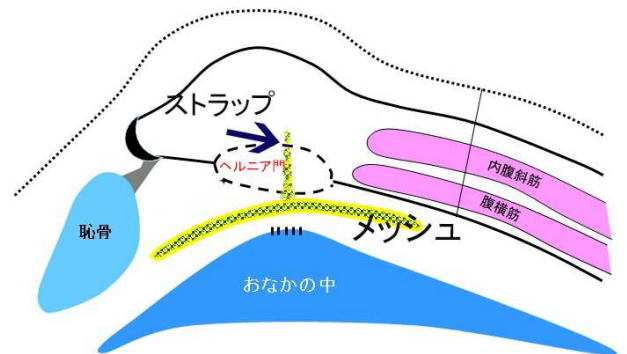
青く突出した部分（ヘルニア）をお腹の中に戻して、メッシュを挿入する。

下図の黄色がダイレクトクーゲルメッシュ。メッシュに遮られヘルニア門からブルーの部分は出なくなります。

術後6日目の創部。傷は小さく目立たない。3cm弱。溶ける糸で縫合しており抜糸は不要です。



ヘルニア門を内側からメッシュで蓋をする。

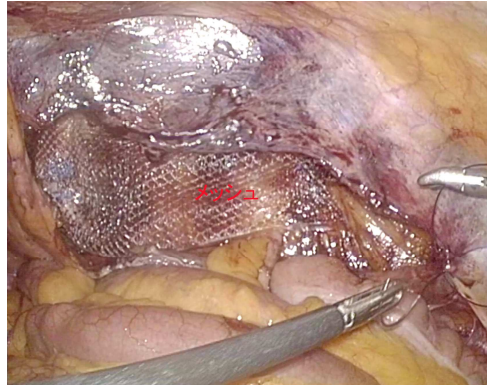


## 全身麻酔による腹腔鏡下ヘルニア手術

両側の鼠径ヘルニアや前立腺ガンの術後のヘルニアなどが適応となります。おへそから小さなカメラをおなかの中に挿入して、おなかの中からヘルニアの穴を専用のメッシュでふさぎます。

全身麻酔が必要で手術時間もクーゲル法に比べて長いです（片方1～1.5時間）。

腹部の手術の既往歴があると、腸管など癒着があり、手術に時間を要する場合があります。



お腹の中からメッシュでヘルニア門を塞ぐ。



当院で使用している腹腔鏡手術用のメッシュ。

当院は年間70例ほどのヘルニアの手術を行なっています。

7割が局所麻酔による手術、3割が全身麻酔による腹腔鏡手術です。